

百寿記念刊行

瀬戸内寂聴全集

〔第二期〕全五巻



新潮社

読者のみなさまへ

今から二十年前、『瀬戸内寂聴全集 全二十巻』が新潮社から刊行されました。私が七十九歳の時でした。およそ物書きを「なりわい」とする者にとって、自分の作品の全集が刊行されることは、夢のまた夢で、生涯の憧れの頂点でしょう。

真赤な装幀の抱えきれない全集を抱きしめた時、私は「ああ、死んでもいい」と思ったでしょうか。死んでなるものか、このつづきを書きあげるまでは！ と、胸がふるえたのです。私にとっては、生きることがひたすら書くことにつきます。今、数えを百歳になった私は、前の全集のつづきの作品をまとめ、全巻を前に、ああ、もう死んでもいいとため息をついています。

私の作品をご愛読下さった皆様にも、どうか、この全集も、ひきつづきご愛読下さいますよう、伏してお願ひ申し上げます。

二〇二二年十二月

瀬戸内寂聴



三十五歳で文壇デビュー、五十一歳で出家得度、七十五歳で『源氏物語』の現代語訳を完成、百寿で大往生を遂げた瀬戸内寂聴。二〇〇一年刊行の全集（第一期全二十巻）から二十年、八十歳以降に書かれた小説、随筆、戯曲や句集、最新作まで、著者自ら精選した決定版全集、ついに刊行！

【本全集の特色】

- 著者八十歳以降の主要作品を収録
- 電子書籍のみで配信された小説「ふしだら」初活字化
- 歌舞伎台本、能、狂言、オペラなど戯曲を収録
- 連載中の最新小説「あこがれ」を収録
- 各巻に著名作家による書き下ろしの「解説」
- 装幀者横尾忠則氏による作品「赤のシリーズ」を每巻口絵に収録

第一回配本 2022年1月31日発売

第二十一巻 小説・長篇

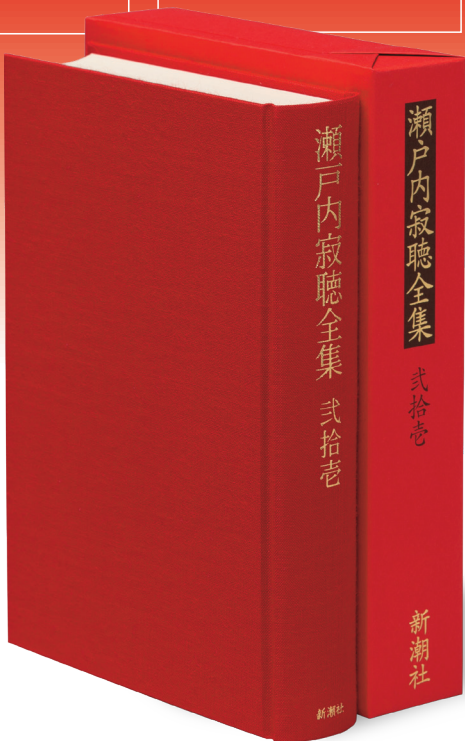
秘花 月の輪草子 爛

解説 川上弘美

● 予価8250円（税込）

以後、毎月巻数順に刊行予定

● 予価各7700〜9020円（税込）



新潮社



川上弘美

寂 庵に繁く通っていた知人がいる。寂聴さんの小説は読むの？とある日聞いたら、いいえ、読まないわ、お話を聞くだけでじゅうぶんなの、と言う。一冊だけでも読んでみてと「場所」を送った。数週間後、「驚きました。こういう厳しくて孤独な寂聴さんがいるから、ああいう情に通じたお話ができるのね」という葉書がきた。瀬戸内さんの言葉は、近くにも、遠くにも、届く。



平野啓一郎

一 十三年前に初めてお目に掛かった瀬戸内さんは、『源氏物語』の現代語訳が大ブームを巻き起こし、老大家というより、現役バリバリの小説家という感じだった。そして、その後の八十代、九十代の旺盛な仕事の数々！ 圧倒的な全集の続編。



田中慎弥

瀬 戸内さんの小説は大胆で奔放なだけではない。恐れやためらいがある。時に不器用でさえある。だから匂いがある。無味無臭な小賢しい構築ばかりが求められる我々世代の書き手にはない野性が、キラキラと輝いている。



伊藤比呂美

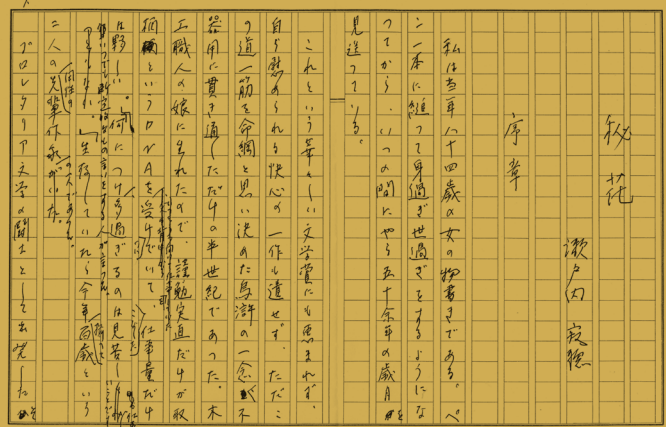
仏 教に関心を持って日本の古典を読み解いていくと、日本文学はみな仏教文学だと思うようになった。出家ということを考えていくと、それは生きながらの自殺だと思えた。寂聴文学とは、この世を離れると決意して実行した人がたどっていた、仏教文学そのものだと思った。



高橋源一郎

「いよ華やぐいのちなりけり」は、岡本かの子の晩年の傑作『老妓抄』に出てくる、老いてなお噴き出んとする主人公のいのちの輝きを歌った、有名な一節だ。寂聴さんは、この岡本かの子を描き、この歌からタイトルを得た別の作品も書いている。いまとなつては、そして、この全集におさめられた、著者八十代を過ぎての作品を一望してみるなら、一読者として、ただこの言葉を呟くのみである。

全巻の内容



第二十一巻

小説・長篇

秘花
月の輪草子
爛

解説 川上弘美

第二十二巻

隨筆

奇縁まんだら

解説 平野啓一郎

第二十三巻

小説・短篇

藤壺
風景

解説 田中慎弥

わかれ

求愛

ふしだら

電子書籍小説 初活字化

第二十四巻

戯曲

句集

追悼文

歌舞伎脚本

解説 伊藤比呂美

「源氏物語 須磨の巻・明石の巻・京の巻」

「源氏物語 藤壺の巻・葵・六条御息所の巻・朧月夜の巻」

能「夢浮橋」「蛇」

狂言「居眠り大黒」「木賊」

オペラ「愛怨」

人形浄瑠璃「モラエス恋遍路」

句集ひとり

第六回 星野立字賞、第十一回 桂信子賞

追悼文・弔辞（一九九五年〜二〇一九年）

第二十五巻

近著

新作

死に支度

解説 高橋源一郎

いのち

あこがれ

著作目録・年譜・アルバム



京都へ出奔した26歳の頃



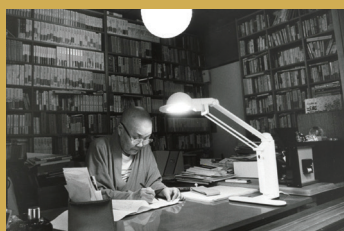
蔵の書齋にて（44歳）



中尊寺にて得度式（51歳）



文化勲章受章（84歳）



湾岸戦争即時停止祈願断食（68歳）



東日本大震災の被災地を見舞う（89歳）

